

事業所名

氷見市障害者福祉センター我家

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

5日

法人（事業所）理念	我家では、小規模事業所ならではの家庭的で温かみのあるサービスの提供を大切に、日々利用児童一人ひとりがその子らしくかけがえのない存在であることを伝えながらサービス提供に努めます。		
支援方針	児童一人ひとりの心に動きに寄り添いながら、児童の微かな表現やサインを見逃さず、心身の状況や異変に気付くと共に本人の思いを引き出して意思伝達や意思決定が出来るように支援します。		
営業時間	8時	30分から	17時15分まで
	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	日々のバイタルチェック（検温・顔色の観察・酸素飽和度等）や月1回の体重測定等を通して保護者の方と児童の健康について情報提供・情報共有に努めます。 入浴サービスを通して、呼吸状態や皮膚状態等を含めた全身状態を把握します。 児童の小さなサインを見逃さず、心身の異常や異変に気づき、必要な対処が早期に行えるよう努めます。	
	運動・感覚	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動、関節の拘縮や変形の予防のため、機能訓練担当職員が看護師や児童指導員を協働しながら関わります。 日中活動を通して、保有する視覚・聴覚・触覚等を十分活用できる様支援します。	
	認知・行動	視覚・聴覚・触覚などの感覚を使い、認知機能が発達できる様支援します。 児童指導員は、児童一人ひとりの興味・関心に沿ってプログラムを提供し、様々な体験を積み重ねる事が出来るよう支援します。 環境設定やプログラムの内容を工夫することで、児童の興味・関心の幅が広げられるよう支援します。	
	言語 コミュニケーション	児童が発信する微かな表現やサインに、関わる職員が呼応する関わりを通して、疎通性が高まり、「伝わったという実感」を積み重ねられるよう支援します。 言語に限らず、表情やしぐさ、全身運動など様々な手段を通して、自らの思いを発信できる様、環境や関わりを工夫しながら支援します。 様々な関わりやプログラムを通して、心が動く瞬間を増やし、話したい・伝えたいという意欲が高められるよう支援します。	
	人間関係 社会性	言語による言葉かけに限らず、触れる等のコミュニケーションを通して、環境や人に対する安心感・信頼感を育みます。身近な人との関係を築き、その信頼関係を基盤として周囲の人との安定した関係を形成できる様支援します。	
家族支援	連携ノートに利用時の様子を詳しく記入し、更には送迎時、保護者や家族の方に直接伝えることで、児童の状況や家庭での様子について情報共有します。兄弟支援やレスパイトも含めて支援できる様、いつでも気軽に相談に応じます。	移行支援	相談支援専門員や学校と連携を密に図り、特に進級・進学の際に必要な情報を共有していきながら本人・家族が安心して新たな環境に進めるように支援します。移行支援会議・カンファレンス等には積極的に参加します。
地域支援・地域連携	氷見市障がい児相談支援・サービス事業所連絡会等に参加し、サービスの現状について発信します。児童を支える他のサービス事業所・多職種との連携を密に図りながら自宅で安心して生活し続けられるよう支援します。	職員の質の向上	支援の中での気づきや変化は職員間で共有し、積極的に支援会議を実施する。毎月1回の職員研修の他、外部研修にも積極的に参加し、専門性を高める。
主な行事等	季節や社会イベントなどに合わせ文化に触れられるような行事を年4回程度実施する。 誕生日（誕生日に近い利用日）には個別に誕生会を行います。		